

しへく次取時即ばれるま込申へ所務事會本宜便は入購御の書本

東京工學博士 今泉嘉一郎 先生序

九州帝國大學(工業政策擔當)助教授
東京帝國大學(鐵鋼業史擔當)講師
日本鐵鋼協會々誌經濟欄擔當

經濟學士 小島精一先生著

鐵鋼業發展史論

目次要綱

第一編 (第一章) 現代重工業に於ける企業集中(第二章) 現代作業法の根本的特徴
 (第三章) 現代重工業に於ける結合組織の發達(第四章) 國際競争の不正化と國際
 獨占(第五章) 基礎産業としての炭鐵業と其資源の獨占(第六章) 世界大戰の企業
 組織に及ぼせる影響(附録) シュベリオン湖鐵探掘業の集中理論

第二編 (第一章) 第十八世紀に於ける英國鐵工業確立史(第二章) 英國鐵工業黃金
 時代史(第三章) 前世紀末本世紀初頭の國際競争史(第四章) 英獨米三國競争力の
 消長論(附録) 鐵鋼關稅及投賣論(第五章) 第二十世紀發達史(第六章) 鐵鋼生産費
 の史的變遷(一八六〇—一九三三年)

第三編 (第一章) 米國鐵鋼業組織の發展と價格及産業の安定(第二章) 同上獨逸
 (第三章) 同上英國(附録) 鐵鋼業研究參考資料の解説

(著者識) 現代の經濟界は所謂重工業を中心として發展して居ると云へるであ
 らう。其重工業を下げ炭礦業より上は造船業及び機械工業まで縦貫する中軸を
 なすものが此の大鐵鋼業である。夫れ故彼のパブロウィッチの指摘した通り現
 代の帝國主義政策は結局鐵鋼業に胎生し之によつて支持されるのである。レニ
 ンは現代資本主義の特徵を獨占組織の普及に見出したが、如上の推斷から、夫
 れは即ち鐵鋼業の領域に成長せる企業組織の形態であると言へるのである。か
 くて、凡そ此産業の重要は次の三點に求められる。第一は先進國の最大産業で

菊版七五〇頁定價金七圓五拾錢
 東京神田一ツ橋通有斐閣刊
 郵稅(東京市外) 金貳拾四錢

あること。第二は經濟的には基本産業であり、政治的には軍需工業であること。
 第三は大經營を單位とする獨占的集中組織の最も發達せる産業なること。

私は數年來此産業の企業組織の發展を一意研究して今日に到つた。研究の成
 果は尙ほ未熟ではあるが、一先づ其の一部分を割いて大方の清覽を仰ぐ事とし
 た。之は恐らく今後數年乃至十數年に亘つて、更に書き繼がるべき同じ研究の
 ほんの序論をなすに過ぎないであらうが、私にとつては將來の研究の土臺を据
 える氣がしないではない。

此卷に於て私は敘述を三編に別つた。第一編に一般重工業に於ける生産及市場
 組織の發展の特徵を論じ、第二編に特に鐵鋼業に於て企業集中を促したる諸因の
 史的傾向を敘べ、最後に其の企業組織の發展形態と産業の安定とを考察した。す
 べて對象とした材料は英、獨、米三國に亘り、同一事項に就ても必ず三國の國民
 的特徴とその由來とを闡明するに努めた。

私の研究目的は主として資本主義的大工業の發展相を検討するのであつて、決
 して本邦現時の製鐵業政策と直接に觸れる氣はないのであつたが、是等三先進國
 の競争的進展を論述せる數章は或は本邦現前の政策論にも興味ある參考資料とな
 るであらう。所謂經濟學者の外にも實務家や政治家に此小篇が繙かれる事は私の
 切望する處である。